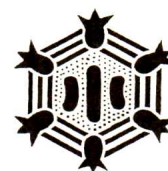


実践例「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」



I. 学校名 喜茂別町立鈴川小学校 【後志管内】

II. 研究の概況

1. 研究主題

自ら進んで学習し、考えを深め、広げていける子の育成
～算数科における指導の工夫を通して～

2. 研究仮説・研究内容

【仮説1】学習過程や学習規律を統一し、学習環境を整えることで、子どもは安心して授業に臨み、意欲的・主体的に学ぶようになるであろう。



[研究内容1]

- ①授業展開のパターン化（課題把握⇒自力解決・全体解決⇒まとめ⇒習熟）
- ②ガイド学習の確立と定着（パワーポイント版学習ガイドの運用）
- ③ノート作り、板書作りの工夫（も・か・まの色分け、展開に沿った板書・ノートづくり）
- ④発表や話し合い時の話し方の指導（話型の指導、聞き方の指導）
- ⑤ICTの効果的な活用

【仮説2】意識的に学び合いの時間を設定し、発問や教材などの工夫をすることで、子どもは対話的に学び、深い学びへとつながるだろう。



[研究内容2]

- ①考えを広げ、深める発問の工夫（「類似点・相違点」「はせどん」などをもとにして）
- ②単元計画の見直し（「基礎基本徹底の授業」と「学び合い中心の授業」の設定など）
- ③1人学級における「対話的で深い学び」の手立ての工夫
- ④ICTの効果的な活用

3. 研究計画

- 1年次【基礎化】◇理論学習に基づく授業実践と検証 ◇仮説・内容の見直し、補充訂正
- 2年次【焦点化】◇仮説・内容の見直し、補充訂正 ◇授業実践と検証の充実
- 3年次【定着化】◇授業実践と検証の強化 ◇研究の総括

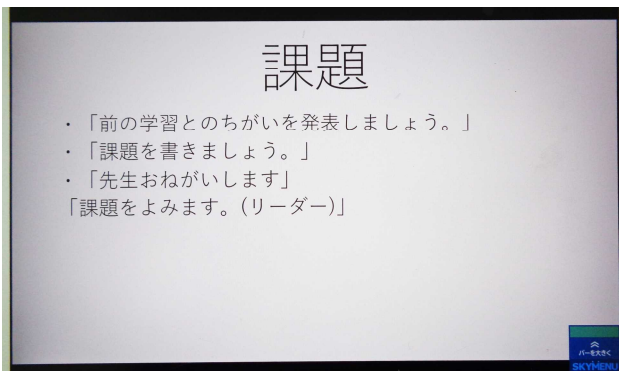
III. 実践事例

1. 令和元年度（今年度）の取組

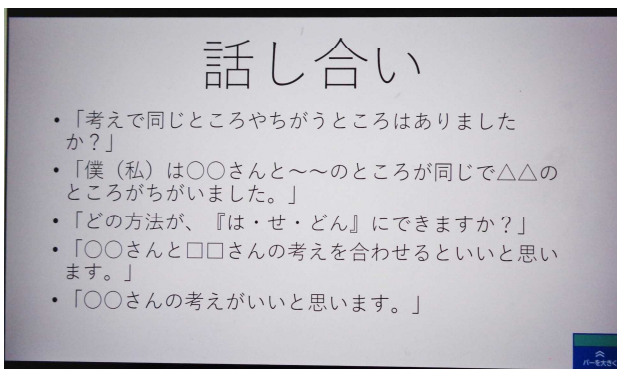
(1) 鈴小スタイルの確立

1-① 授業展開のパターン化

1-② ガイド学習の定着（「パワーポイント版学習ガイド：中学年」）



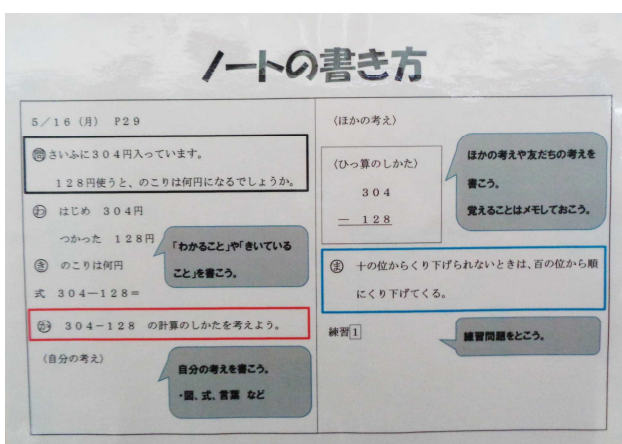
『つかむ・考える・まとめる・深める』の4課程のパターン化については、主に問題や課題の把握、自力解決と全体交流、まとめ、習熟問題と振り返りとして、定着を図っている。算数では、概ねパターン化が進んできており、特に課題とまとめを軸とした学習は、他の教科等でも積極的に取り入れて実践を重ねている。



「ガイド学習」については、マニュアルを学年ごとに作成し、学習リーダーに持たせることで、確かな定着に向けた取組を進めている。これまでは、教師が主となって進める傾向が強かったため、特に課題設定や話し合いの場面において可能な限り子どもに委ねることを視野に入れ、ガイド学習の取組を進めている。左の「学習ガイド」についても、基本は守りつつ、学年や児童の実態に応じて弾力的に活用している。

(2) 学習規律の確立

1-③ ノート指導の徹底（中学年）



学習展開に合わせたノート作りを進めている。特に算数では、発達段階に考慮しながら、全学年でノート作りを進めており、教室にも「ノートの書き方」を掲示し徹底を図っている。「課題」と「まとめ」を色分けして囲み、「今日は何を学んだのか」がわかるとともに、振り返りや課題解決のヒントとして効果的なノート作りを目指している。

1-④ 話型の確立（話型の提示：低学年用）

はなすとき


○「はい」と へんじを しましょう。
○みんなに きこえる こえで。
○あいての めを みて。

①さいごまで はなしましょう。
「…です。」 「…ます。」

②つなぎ ことばを つかって はなしましょう。
「まず…です。」 「つぎに…です。」

③りゆうを つけて はなしましょう。
「どうしてか というと、…だからです。」

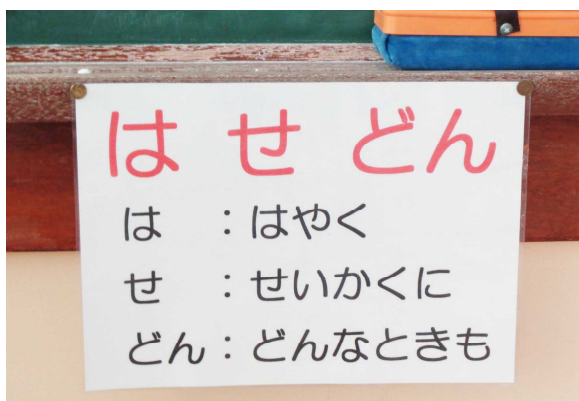
④じぶんの かんがえを はっきりさせましょう。
「おなじです。」 「ちがいます。」 「にっています。」



話型の確立に向け、低・中・高学年毎に「話すとき」と「聞くとき」のモデルとなる掲示物を作成し、活用しながら取組を進めている。1学期は「です。」「ます。」の定着など、まだまだ不十分であったため、全体で再度内容等を確認し、指導の徹底に努めている。

(3)「考えを広げ、深める発問」の工夫

2-① 「はせどん」(はやく せいかくに どんなときも)」の活用



児童がそれぞれの考え方からよりベストの方法を選択し、活用していく。「速く・正確に・どんなときにも」できるやり方を略して「はせどん」と言い、各教室に掲示し、常により良い方法を探す手立てとして活用している。

(4)「対話的で深い学び」の工夫

2-③ 1人学級における「対話的で深い学び」の手立ての工夫



1人学級における「対話的で深い学び」の手立ての工夫として、キャラクターの活用を実践している。「キャラクターの考え」を自分の考えと比べたり、子ども自身に説明をさせたりすることにより、多様な考え方を把握し、「対話的な学び」につなげている。また、キャラクターに個性（教科書準拠キャラ・アイデアキャラ・間違いキャラ等）を持たせ、子どもにバラエティな考え方を提示し、「対話的な学習」につなげる工夫も進めている。

IV. 成果と課題

本研究は1年目を終えたところで実践が浅い部分もあるが、現段階での成果と課題をまとめ、次年度の研究の深化を目指す。

1. 実践の成果と課題

[研究内容1]

- 学習展開のパターン化の定着（課題把握→自力解決・全体解決→まとめ→習熟）により、児童が安心して授業に取り組んでいる様子が見られた。
- ガイド学習の確立と定着により、自ら学習を進めていく素地がつくられていた。
- 「パワーポイント版学習ガイド」については、それぞれの学年に応じた原版が作成され活用されていた。
- 「ノートづくり・板書づくりの工夫」では、掲示物の活用や色分け、学習展開に沿った板書づくりが学校全体で統一され、進められていた。
- ノートに自分の考えをどこまで書くのか（言葉・説明・図・式）を学校全体で統一する
- 発表や話し合いの時の話し方の指導では、相手意識を持った発表の仕方や聞く態度の指導が今後必要。

[研究内容2]

- 「考えを広げ、深めるための手立ての工夫」では、類似点と相違点を見つける学習や、「はせどん（はやく せいかくに どんなときも）」を活用する学習や「キャラクター」を活用することにより、より対話的で深い学びにつなげることができた。
- 「単元計画の見直し」では、「基礎基本の定着の授業」や「学び合い中心の授業」などを単元計画の中で配置し、「定着の時間の確保、重視」等、一方の学年に重点を置いた指導を進めることができた。
- 「ICTの効果的な活用」では、実物投影機、大型テレビ、タブレットを活用し、画面を見たり、画面を残すことにより、比較検討を学習に取り入れることができた。
- ICT画像や映像を整理して保存し、データを蓄積していく必要がある。

[その他]

- 「具体物の使用」については、どの学年も効果的であり、意識的に取り入れることができた。
- 子どもたちに問題解決への見通しを持たせたが、どこまで見通しを持たせるのか、児童の実態、やりすぎ、やらなすぎ、学力差等を考慮して進める必要がある。
- 「評価」については、子ども自身による自己評価・振り返りの必要性があり、どのような方法でやるのかを検討していく必要がある。